opusdei.org

## 年間第10週・水曜 日84現行的な恩恵

善行のためには恩恵が必要。現行的な恩恵。応答。

2024/04/28

年間第10週・水曜日

84 現行的な恩恵

- 善行のためには恩恵が必要。
- 一現行的な恩恵。

84. 1 善を行うためには、恩恵を 必要とする

原罪のために、人間の本性は、神に いただいていた聖性の状態を失いま した。結果として、所有していた高 潔さと内的秩序を人間は奪われまし た。最初の罪を犯した後、人間は道 徳律を果たすための意志の力が弱く なりました。この世に罪が姿を現し た後、善を行うことが難しくなった のです。「これこそ人間が自分の中 で分裂していることの説明です。こ うして、人間の全生活は、個人的に も団体としても、善と悪、光と闇の 間における劇的な戦いとして現れま す」<sup>1</sup>。

超自然的生命を目指す行いには、神 の助けが絶対に必要です。「独りで 何かできるなどと思う資格が、自分 にあるということではありません。 私たちの資格は神から与えられたも

のです | <sup>2</sup>。そのうえ、原罪のため にその助けはさらに必要になりま す。すなわち、「誰も自分自身に よって、自分の力で罪から解放さ れ、自分の力で今の自分以上に自ら を高めることも、自分の弱さや孤独 や奴隷の状態から完全に解放される こともありません」<sup>3</sup>。すべての人 は模範、教師、医師、解放者、救い 主、生命の与え主であるキリストを 必要としています⁴。 キリストがい なければ、私たちは何もすることが できません。キリストと共に、すべ てを行うことができます。

人間の本質は、原罪によって堕落してはいないけれども、洗礼の後でも、悪に向かう傾きを経験します。 善を行うことは難しいことがわかります。それは、それ自体には罪はなく、罪に由来し、私たちを罪に向けさせる、いわゆる、情欲(fomes peccati)です $_{-}^{5}$ 。全く抑圧されては

いないけれども、自由自体は弱められているのです。

私たちは、この教えの光に照らされ て、聖性と使徒職の実りである良い 働きは、第一に、神のものであるこ とが理解できます。二番目に、実に 二番目に、常に弱く、不釣合いな道 具としての私たちが、恩恵に一致し た結果です。神は、うぬぼれる危険 を避けられるように、私たちの救い がたい惨めな状態を常に心に留める ように求めておられます。聖アル フォンス・リゴーリが度々言うよう に、高慢に支配された人は、地上的 に価値のあるものは何も盗まず、そ のかわりに、神の栄光を盗むので、 他の泥棒とは比べものにならないほ ど悪い泥棒です。使徒によると、私 たちは、実際自分では良い業は何も できません。良いことを考えること すらできないのです(2コリント3・ 5参照)。ですから、私たちが何か 良いことを行おうとする時は、自分

から主にこう話しかけましょう。 「すべてはあなたからいただいたの、わたしたちは御手から受け取で、差し出したにすぎません」(たません」(では上29・14)。。良い結果が手度に入った時はいつでも、もうません。ながなら悪いものやどこかあるともが私たちのものですから。さいものは神のものですから。

## 84.2助力の恩恵

て、神の恩恵は彼らと共にあり、そ の霊魂内で新たな改心、新たな進歩 を求め、実現させるためにお助けに なります。福音書で出会う他の人々 は完全にどころか部分的にさえ、神 の光に応えません。私たちのキリス トとの出会いもまた、ユニークで、 二つとないのです。それは、ガリラ ヤで、ゲネサレト湖の傍で、エルサ レムで、サマリアを通って旅した時 のいくつかの小さな町で、キリスト に出会った人々の出会いに似ていま す。イエスは、今も同じように私た ちの生活の中で現存されています。 神の善は、神に私たちが近づくこと を助けてくれる神の霊感を受け入れ ることができるようにさせてくれま す。神は、困難な仕事を完全に仕上 げ、特別の犠牲を受け入れたり成し 遂げたり、または信仰の行為をする ことを助けてくださいます。神は、 困難だと思うことを神の愛のために 克服するよう、私たちを助けてくだ さいます。これは、それぞれの霊魂

に固有の方法で影響を与える、神からの自由でその時限りの恩恵、助力の恩恵です。何とたくさんの現行的な恩恵を私たちは毎日受けているでしょう! 聖別された方、主の静かで最も効果的な行いに自分の霊魂の扉を閉ざさない限り、ますます多くの恩恵を受けるでしょう!

恩恵を通して、神は、それぞれの男 女に、善を行いやすくされるだけで なく、善を行うことが本当にできる ようにもしてくださいます。掟を守 り、超自然的な行いをすることは、 私たち被告物にとって自分の力だけ では全く不可能なのです。「わたし を離れては、あなたがたは何もでき ない」<sup>7</sup>。主は、はっきりと言われ ました。また、聖パウロは、救いは 「人の意志や努力ではなく、神の憐 れみによるもの」<sup>8</sup>、変わることの ない無限の慈しみによると教えてい ます。私たちは、この教えをどれほ

どよく体験してきていることでしょ う!

聖霊は、真理を理解することができるように、私たちを照らしてくださいます。聖霊は私たちを励まし、良い行いを優先するようにさせ、行動している間もいつも共にいて完全に実践するよう助けてくださいます。「あなたがたの内に働いて、み心は神まに望ませ、行わせているのは神

ままに望ませ、行わせているのは神であるからです」。にもかかわらず、恩恵が私たちの自由を奪うわけではありません。決意するのは私たちであり、行動するのは私たち自身だからです。

常に、自分ではなく神に頼る実際的な知恵、私たちの知性の鋭敏さや私たち自身の才能ではなく、神の内に強さを見出す実際的な知恵をくださるように願わなければなりません。望みを実行に移す時、愛のこもった主のこの警告に頻繁に耳を傾けなけ

ればなりません。「わたしを離れ て、あなたがたは何もできないし。 超自然的生活においては、<br/>
私たちは 常に行うすべてのことに対して、大 人の助言を必要とする子どもの従順 さと注意力をもって戦う初心者で す。聖フランシスコ・サレジオは、 神の人間に対する愛の濃やかさを説 明するのにこのたとえを使っていま す。母親が、子どもに歩くことを教 えている時、必要な時には、助け、 支えます。最も危険のない平らな十 地で、数歩、歩ませます。手をと り、支え、腕に抱き上げます。同じ ような方法で、主は、子どもたちに よって踏み出される歩みに、絶えず 注意を払われていま $\tau^{10}$ 。 これは、 私たちが、神のみ前に何者であるか ということ - 歩くことをまだ教 わっていない小さな子どものようだ ということなのです。

神に応え、善意を示し、何度も何度 もやり始めるのが、私たちの責任で す。霊的指導に誠実であることによって、また具体的な良心の特別糾明(現在、戦っている点)を持つことで実行することができます。私たちの日々は、大抵の場合、助けを求め、助けに応え、感謝する、に要約できるでしょう。

## 84. 3 私たちの対応

神は、一人ひとりの霊魂に、限りない敬意を持って接していかれます。ですから、神は、私たちの意志を抵しないので、人間は、恩恵に抵抗し、神の望みを台無しにする方に、とならは一日中、多分、小さなことにH中、多分、小です。私たちはにNOと言っているのです。私たでは、神が求めることにYES、自分のとは、神が求めることにYES、自分のとは、神が求めることにYES、自分のとの度も言わなければなりません。

神の恩恵に対する自由な応えは、私 たちの考えに、言葉に、行いに生じ なければなりません $^{11}$ 。 信仰だけで

は、私たちは主が望まれるほど十分 に協力するのは不十分です。神は、 私たちに、個人的な努力、行い、進 取の気性、効果的な望みを求めてお られます。主は、十字架上での死ゆ えに、限りない恩恵の宝に値する方 ですが、この恩恵は、一度に私たち に与えられるわけではなく、多かれ 少なかれ、その豊かさは私たちがど のようにその恩恵に一致するかにか かっています。私たちが、すべての ことで、主にYESと言う心積もりが ある時、ひとつなぎになった真実の 恩恵を自分の方に引き寄せます $^{12}$ 。 日々の恩恵のささやかなほのめかし に忠実である時、朝、英雄的瞬間を 生き、初めに神に思いを向ける時、 ミサ聖祭のために十分準備する時、 本当に大切なものから引き離そうと する注意散漫を拒むように戦う時、 仕事を捧げる時、私たちの心は、恩 恵、つまり神への愛で、溢れるばか りに満たされます。

神のためにできることをすべて行う 者で、神に忘れられ愛されていない 人は誰もいません。神は、すべての 人に、自らの過失によるのではない 限り、教会の外部にいる人々にさ え、助けの手を差し伸べます<sup>13</sup>。 そ れだけでなく、限りなく慈しみ深 く、限りなく忍耐強い神は、相続し た財産を持って逃げ出し、今は惨め な状態にいる放蕩息子を、何度も何 度も家に戻るよう出向えにいかれま す。神は、もう一度父の家に戻る道 へと旅立つことができるように、彼 に対して愛を注ぎ、心を動かしてお られます。そして、与えられた恩恵 に一致している人に出会えば、神は 恩恵に次ぐ恩恵をその人に山のよう にお与えになり、力づけられ、さら にもっと高く進歩するよう励まされ ます。

私たちの個人的な祈りにおいて、一 致することが難しいと思われるな ら、次の忠告に従いましょう。聖母

に話しかけ、信頼を込めて申し上げ なさい。「聖母よ、神が心に注がれ た理想を実現させるには、高く、高 く、非常に高くまで飛び上がらなけ ればなりません」14。私たちは、常 に、マリアの傍に、最も忠実な配偶 者であるヨセフを見出します。彼 は、神が、天使を通して彼に示され たことを即座に理解し、そのとおり 完全に実行する術を心得ていまし た。私たちは、一日中、ヨセフに向 かい、働く日々の生活の中で、細々 としたことをしている只中で、時に は非常に小さい聖霊の声を、はっき りと聞くように助けてくださるよう に、この超自然的な勧めを実践する 剛毅を願うことができます。

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 第 2 バチカン公会議,現代世界憲章,1 3 参照

- St Irenaeus, Against Heresies,25. 3
- <sup>4</sup> 第2バチカン公会議,Ad gentes, 8 参照
- <sup>5</sup>トレント公会議, Decree, On original sin, 5
- <sup>6</sup> 聖アルフォンス・リゴーリ, A Jungle of predictable matters, 2, 6
- 7 ヨハネ15:5
- <sup>8</sup> □-マ, 9:16
- 9 フィリピ2:13
- <sup>10</sup> 聖フランシスコ・サレジオ, Treatise on the Love of God. 3、 4
- 11 第2バチカン公会議,教会憲章, 14 参昭

- \_\_\_ PiusXII, Mystici Corporis, 2 9 June 1 9 4 3 参照
- <sup>13</sup> 第2バチカン公会議,教会憲章, 16 参照
- <sup>14</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, 『鍛』, 994 参照

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-X-sui/ (2025/10/29)